

とうがらし類

農薬取締法上、「とうがらし類」は、甘長とうがらし（万願寺とうがらし等）、かぐらなんばん、きだちとうがらし、ししとう、とうがらし、ハバネロ、ピカンテなどである。ピーマンは、「とうがらし類」には含まれない。

「とうがらし類」は、「とうがらし類」、「ピーマン及びとうがらし類」、「なす科果菜類」、「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

とうがらしの葉を食用にする場合は、「とうがらし（葉）」、「葉菜類」、「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

—— 発病・加害時期
 == 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
普	通					▲ 定植	—————				収穫			
疫	病							——			——			
う	ど							——			——			
炭	そ							——			——			
モ	ザ							——			——			
ア	ブ							——			——			
ミ	ナ							——			——			
オ	オ							——			——			
ハ	ス							——			——			
ネ	キ							==			==			

疫病

留意事項

- 1 降雨による土壌のはねあがりで伝染する。

防除方法

- 1 土のはねあがり防止のため、敷わらなどでマルチングする。
- 2 なす科作物（なす、トマト、ピーマン、ばれいしょ等）の連作を避ける。
- 3 被害果実、枝等は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 排水を良好にして過湿を避ける。
- 5 苗床、本ぽを土壌消毒する。（XⅢ土壌消毒2（4）参照）
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 ☐ 【30kg/10a 定植21日前/1回】
- 6 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ランマンフロアブル](#) ☐ 2 1 【2,000倍 前日/4回】
 - ・ [ライメイフロアブル](#) ☐ 2 1 【2,000~4,000倍 前日/3回】
 - ・ [ユニフォーム粒剤](#) ☐ 4 ☐ 1 1

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【とうがらし類（除ししとう） 3g/株 株元散布 前日/1回】

【ししとう 3g/株 株元散布 前日/3回】

うどんこ病

留意事項

- 1 高温乾燥時に発生が多い。
- 2 QoI剤（**1 1**）、SDHI剤（**7**）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 窒素過多を避ける。
- 2 定植時に、下記の薬剤を施用する。
 - ・ **オリゼメート粒剤** **P 2** 【5~10g/株 植穴土壌混和 定植時/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ **ラリー水和剤** **3** 【4,000~6,000倍 前日/4回】
 - ・ **トリフミン水和剤** **3** 【4,000~5,000倍 前日/5回】
 - ・ **ストロビーフロアブル** **1 1** 【4,000倍 前日/2回】
 - ・ **アフェットフロアブル** **7** 【ししとう 2,000倍 前日/3回】

炭そ病

留意事項

- 1 温暖で雨が多いときに発生が多い。
- 2 病斑上の胞子が、雨等の水滴で飛散、伝播する。
- 3 種子伝染する。

防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 わらまたは、ポリフィルムなどでマルチングする。
- 3 窒素過多を避ける。
- 4 被害果実や葉は、早めに除去するとともに、被害株は収穫後、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ **ベンレート水和剤** **1** 【甘長とうがらし 2,000倍 前日/3回】

ウイルス病

留意事項

- 1 トマトモザイクウイルス（ToMV） トウガラシマイルドモットルウイルス（PMMoV）、タバコモザイクウイルス（TMV）、キュウリモザイクウイルス（CMV）を病原とする

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

モザイク病や、トマト黄化えそウイルス（TSWV）を病原とする黄化えそ病などがある。

- 2 生育初期の感染による被害が大きい。

防除方法

- 1 苗床は寒冷しゃで被覆し、アブラムシ類の侵入を防ぐ。
- 2 アブラムシ類（CMV）、アザミウマ類（TSWV）の防除に努める。（アブラムシ類、ミナミキイロアザミウマの項参照）
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 ハサミ等で芽かきする際に、ウイルスが伝搬する可能性が高いので、発病株らしき株は芽かきを後回しにする（CMV、ToMV、PMMoV）。

アブラムシ類

留意事項

- 1 主にワタアブラムシ、モモアカアブラムシが発生する。
- 2 アドマイヤー1粒剤の成分イミダクロプリドの総使用回数は3回以内（育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内）。
- 3 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤の成分ジノテフランの総使用回数は4回以内（但し、育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

防除方法

- 1 露地栽培では、シルバーポリフィルムでマルチングする。
- 2 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [アドマイヤー1粒剤](#) 4 A
 【1g/株 株元散布 育苗期後半/1回】または
 【1~2g/株 植穴または株元土壌混和 定植時/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【3,000倍 前日/2回】
 - ・ [モベントフロアブル](#) 2 3 【2,000倍 前日/3回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2,000~3,000倍 7日/2回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B
 【とうがらし類（甘長とうがらしを除く） 4,000倍 前日/2回】
 【甘長とうがらし 4,000倍 前日/3回】
 - ・ [ウララDF](#) 2 9 【ししとう 2,000~4,000倍 前日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ミナミキイロアザミウマ

留意事項

- 1 虫は葉裏、花、幼果（へたの下）に多い。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 3 スタークル顆粒水溶剤とアルバリン顆粒水溶剤は、同一成分ジノテフランであり、合計4回以内（但し、育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

防除方法

- 1 ほ場周辺の除草を行う。
- 2 露地栽培では、シルバーポリフィルムでマルチングする。
- 3 下記の薬剤を土壌施用する。
 - ・ [アドマイヤー1粒剤](#) 4 A
 【アザミウマ類 1~2g/株 植穴または株元土壌混和 定植時/1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モベントフロアブル](#) 2 3 【アザミウマ類 2,000倍 前日/3回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【アザミウマ類 1,000倍 前日/2回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2,000倍 前日/2回】
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【アザミウマ類 2,500倍 前日/2回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A
 【アザミウマ類 2,000倍 前日/2回】

オオタバコガ

留意事項

- 1 広食性で、多くの作物を加害する。
- 2 早期発見に努め、若齢幼虫時に防除する。

防除方法

- 1 幼虫による被害が大きいため、食害痕や虫フンに注意し、捕殺に努める。
- 2 摘除した茎葉や果実、被害果にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) 6 【2,000倍 7日/2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【タバコガ類 1,000倍 前日/2回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2,000倍 前日/2回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【2,000~4,000倍 前日/2回】
 - ・ [BT剤](#) 1 1 A（IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 早期発見に努め、若齢幼虫時に防除する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アニキ乳剤](#) 6 【2,000倍 前日／3回】
 - ・ [プレバソフフロアブル5](#) 2 8 【1,000～2,000倍 前日／3回】
 - ・ [BT剤](#) 1 1 A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

ネキリムシ類

防除方法

- 1 地中の幼虫の捕殺に努める。
- 2 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ガードベイトA](#) 3 A 【3kg／10a 株元散布 7日／2回】
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) 1 B
【4～6kg／10a 全面土壌混和または作条土壌混和 は種時または定植時／2回】

病虫害と間違いやすい生理障害

尻腐れ果

留意事項

- 1 初夏の高温で乾湿の差が激しく、窒素質肥料の肥効が高い時に発生しやすい。
- 2 石灰欠乏に伴う生理障害である。

防除方法

- 1 堆肥を十分施すとともに、窒素質肥料の過用を避ける。
- 2 深耕し、保水力の強い土づくりに努める。
- 3 土壌の過乾過湿を防ぐため、ビニールマルチや敷わらなどを行う。
- 4 塩化カルシウム200～300倍液を7日間隔で数回葉面散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。